今月のことば　　令和５年（2023）５月　＜No.201＞

「生かされている」考

「生かされている」。私（住職）も法話でよく使う言葉です。
しかし、いったい何に・どう生かされているのかが曖昧なまま、その響きの良さで使ってしまっていることが多くありました。

東本願寺系の大学・大谷大学の学長を務められた小川一乗先生は、きちんと仏教的な意味を踏まえた上で使わないと「危険な言葉だ」と言われています。ここで改めて、私たち浄土真宗の者にとって「生かされている」とはどういうことなのか、考えてみたいと思います。

みなさんはこう考えています。**「私が先ず存在していて、いろいろなご縁をいただいて生かされている」**と。しかし、これは仏教ではなくて、一般の常識です。ここに立つと、現世利益信仰が始まるのです。なぜなら、よいご縁だけ欲しいからです。悪いご縁は要らないのです。…だから神仏に手を合わせるときに、自分にとって都合のよいご縁がほしいといってお参りする。これが現世利益信仰です。これは基本的に間違いです。**私がいてご縁をいただくのではないのです。ご縁が私となってくださっているんです。…ご縁の寄せ集めが今の私なのです。**これが仏教でいう「生かされている」ということなのです。ご縁が今一瞬の私となってくださっているのです。そのことへの目覚めが仏教なのです。それが縁起です。無量無数といってよいほどのご縁によって、この瞬間の私が成り立っている。それが生かされているということなのです。

『平等のいのちのを生きる』小川一乗 著 より

「生かされている」と言うと、人生を謙虚に歩む“美しい”自分の姿を思い描いてしまいがちですが、「（美しい・正しい）私という実体があるのではなく、ご縁の寄せ集めがたまたま今の私となっている」のです。だからこそ「生かされている」という言葉には、**違ったご縁に遇えばすぐに命を終えてしまうかもしれない私、どんな悪行をしでかすかわからぬ私、という厳しいお示しも込められています。**

浅原才市という妙好人の言葉に、

ありがたいな　ごおんおもえばみなごおん　この才市もごおんでできました

とあります。才市はご縁をご恩とさらに深くいただいています。そのご恩について、「私はごおんをいただいています」とは言っていません。「ごおんでできました」と言っています。…都合のよいものも悪いものも、すべてが「ごおん」なのです。福は内、鬼は外ではないのです。福も内、鬼も内です。福と鬼が私となってくださっているということです。

念仏者にとって「生かされている」という言葉には、阿弥陀さまから見抜かれた私の姿・「都合のよいものしか取り入れようとしない姿」への慚愧（ざんぎ）心と、「そんな私をも救いとげようとする仏さまがおられました」という歓喜（かんぎ）心との、両方が備わっていたのです。

今後、私も注意深く使っていきたいと思います。

慧日山 真光寺